

学校教育目標
考える 明るく 強く

令和5年度

研究委嘱2年目まとめ

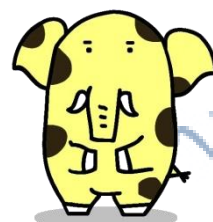
研究主題

生徒が考えを言語化し、
表現できる道徳科の授業づくり



中

新座市立新座中学校



1 研修主題

生徒が考えを言語化し、表現できる道徳科の授業づくり

2 研究動機

令和3年度まで「わかる授業に向けた指導の工夫」、「確かな学力を持った生徒の育成～活用の場面を工夫して～」を研究主題として取り組んできた。これらの研究を通して、授業の中で「活用」の場面を作り出し実践することで、生徒同士の関わり合いや深い学びにつなげることができた。さらに、「課題とまとめの工夫」を各教科で実践することで、生徒は授業の流れが分かり学習の深まりにつなげることで、生徒の授業に対するモチベーションや学力を向上させることができた。

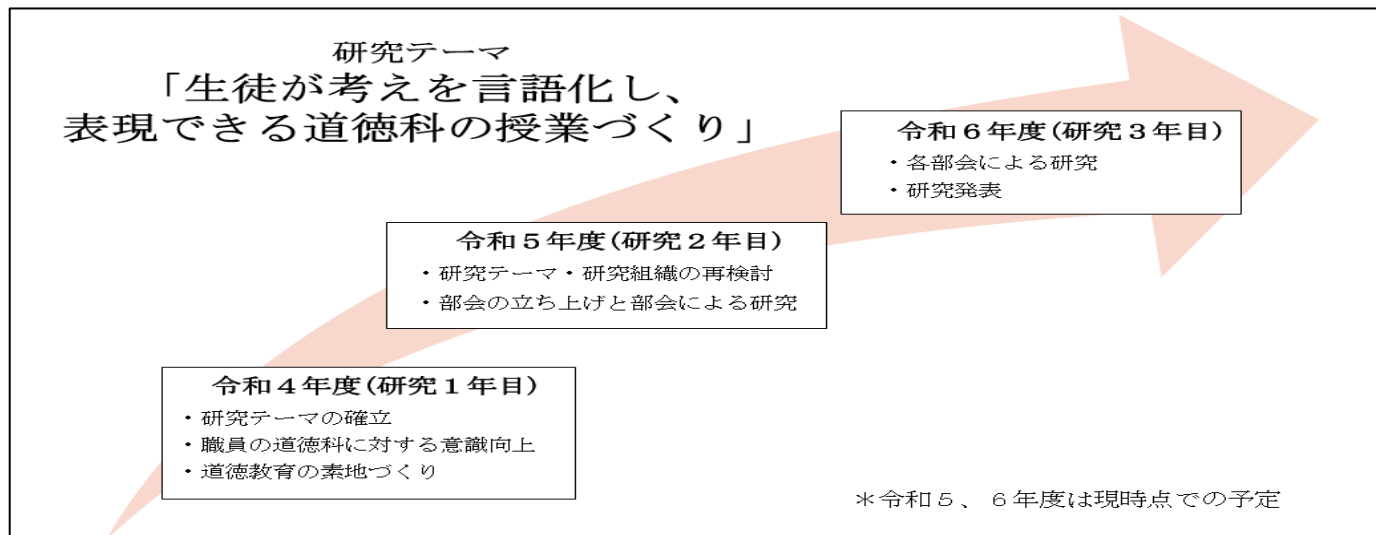
本校では生徒の「学力」の状況について課題がある。その要因の一つとして、自分の考えや心境を自由に表現したり発表したりすることが苦手であり、自分の感情を上手に表現できないことがあげられる。また、周囲の人・集団・社会との関わりを大切にし、望ましい人間関係を構築できる力や社会性を育成することも課題である。

この課題に対し、道徳科の授業を要とした全教育活動において、生徒が自分の考えを持つとともに互いの意見を尊重しながら、表現し合える言語活動を充実させることで、相手を思いやる心や人間関係の構築、さらに、自己肯定感も高められるのではないかと考える。また、学びの基盤となる「心」を育み、自己表現できる生徒を育成し、学びに向かう姿勢を高めていくことで、学力も相乗効果として伸びていくのではないかと考えた。

3 研究目的

- (1) 課題解決に向けて、自ら意見を表現できる。(価値理解)(人間理解)(自己表現)
- (2) 他者の意見や感想を聞いて、新たな考え方に気付くことができる。
(多面的・多角的な見方)(他者理解)

4 研究の目標



5 研修スケジュール

- 4月 5日 校内研修①・・・生徒対応等研修
- 4月11日 校内研修②・・・前年度研修内容確認・今年度年間計画提案
- 6月27日 校内研修③・・・3部会による活動内容協議
- 7月19日 校内研修④・・・夏季校内研修計画周知・救急救命講習
- 8月21日 校内研修⑤・・・小中連携テーマに基づく情報交換及び協議
- 8月24日 校内研修⑥・・・教育課程伝達・道徳科教材研究及び研究協議
道徳科授業に係るICT研修
- 10月16日 学校訪問B（道徳科・総合的な学習の時間・特別活動）
- 11月20日 校内研修⑦・・・3部会による活動内容協議
- 12月18日 校内研修⑧・・・研究授業に係る教材研究会
- 2月 9日 校内授業研究会・・・研究授業・講師招聘による研修会
- 2月26日 校内研修⑨・・・今年度反省

6 研修組織

研修推進委員会 校長・教頭・主幹		
<研修推進委員> ◎秋山 ○齊藤 岩沢 坂本	<道徳部会> ◇秋山 渡部 高橋菜	◎研究主任 ○副主任 ◇道徳推進教師
		※下線は特別支援学級担当者
1年	篠原・田中・安田・榮倉・大久保・加藤・高岡・ <u>関根</u>	
2年	高橋若・糸井・今村・土屋・川久保・服部・ <u>間宮</u>	
3年	和智・尾形・藤原・富永・山岸・小峯・ <u>竹元</u>	
学年外	シェリー・金子・黒米・坂弥・森田・南部・今井	

7 道徳教育に対する研究の経緯

研究委嘱2年目として、授業研究部・調査部・ICT部を立ち上げた。

8月24日 夏季校内研修

「道徳教育について・道徳科授業における効果的なICTの活用について」

1 目的

昨年度から道徳教育について研究を行っているが、教職員の異動もあり若手の教員がさらに増えたことから、再度道徳教育について理解を深める研修を実施した。

また、答えが1つではない道徳的な課題を一人一人の生徒たちが自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」への転換により、道徳性を養うことが求められている。道徳科の目標に示されている学習活動に着目し、より効果的に授業を展開するための手段としてICTを活用することが肝要となる。ICTをただ活用するだけではなく、どのように活用すれば、生徒が「多面的・多角的に考えられるのか」、「自分自身との関わりの中で考えを深められるのか」を研究するために研修を実施した。

2 内容

今年度、中堅教諭等資質向上研修に参加している教員が研修で学んだ「道徳教育」について、「Kahoot!」やパワーポイントを使用して講義形式で伝達した。

効果的なICTの活用は、本研究部会であるICT部の教員が道徳科におけるICTの使用例を紹介し、その後、『彩の国の道徳 心の絆 [天使の声]』を教材としてグループごとに教材研究を行った。その際、ロイロノートをどのように活用できるのかについて協議した。

3 研修後

道徳教育について再認識するための研修を実施したことにより、教員が更に理解を深めることができた。

また「Kahoot!」という教育用ゲームアプリを使用することで、教員のモチベーションも向上し、意欲的に研修に取り組む姿勢が見られた。研修後、道徳科の授業以外で「Kahoot!」を活用した教員もいた。

教材研究の場面では、ロイロノートを使用したことがない教員が実際にその方法に触れることができたため、新しいことに挑戦する良い機会となった。また、時間を十分に確保したグループによる教材研究と研究協議では、互いの意見交換やICT活用の仕方、発問の仕方の工夫など、多岐に渡り研究について学び合うことができた。

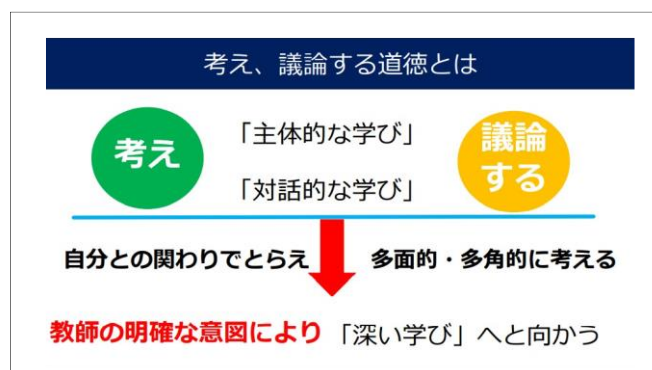
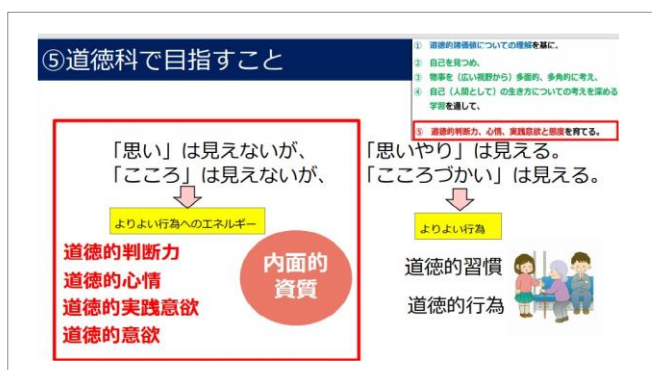
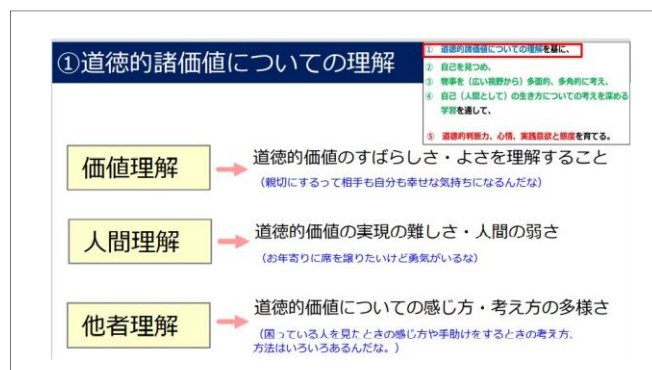
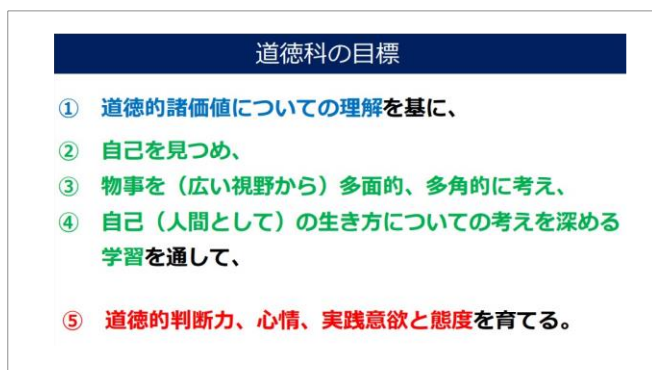
しかし、テーマを「効果的なICTの活用」と絞ってしまったせいで、必ずICTを活用しないと

いけないという縛りができてしまった。道徳科の目的は「道徳性を養うこと」であり、そのための手段がICT活用の工夫である。手段であるはずのICT活用が、今回の教材研究における目的になってしまい、「教師主体」の「活動あって学びなし」の授業になってしまっていたグループもあった。

ICT活用が目的にならないように留意していく必要があることを課題として再認識した。

ICT導入により、生徒の意見を一律に共有することがとても容易になった。しかし、共有されることに抵抗感を持つ生徒も少なからずいるため、目の前の生徒の実態を考慮し、活用方法を検討していく必要もあることが分かった。

「道徳教育についての資料の一部」



1 明確な指導観をもつ



(1) 教師の道徳的価値観

ねらいとする道徳的価値について、学習指導要領に基づき**その意味を解釈し、どこに重点を置いて指導するのか**が教師が明確に捉える。

(2) 児童生徒の実態把握

ねらいとする道徳的価値に関する児童生徒の実態を捉え、本時で**何を考えさせ、何に気付かせたいのか**が明確に持つ。

(3) 教材の活用

子供たちに考えさせたいことが、どの場面にどのように含まれているのか検討し、**具体的な教材の生かし方**を明らかにする。

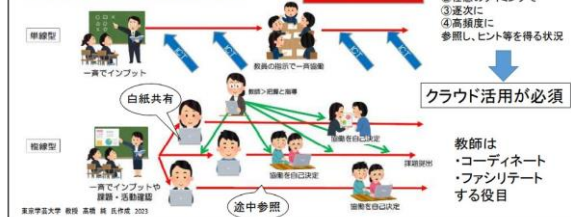
子ども一人一人を主語にする

単線型の授業 から **複線型の授業** へ

一人一人の子供に合わせた複線型へ

ハウツーでは困難

子ども同士、あるいは教師が
①必要な情報に
②任意のタイミングで
③適切な
④高頻度に関与し、ヒント等を得る状況



12月18日 校内研修

2月9日実施の研究授業に係る全教員による教材研究会

1 目的

夏季校内研修で道徳教育について理解を深め、ICTの効果的な活用について考えた。その研修を活かして道徳科の授業を行っている。

研究2年目のまとめとして研究授業を行うにあたり、授業者だけではなく全ての教員が教材研究を行うことにより委嘱研究への意識を高めるとともに、授業づくりについて意見交換を行った。

2 内容

授業研究部による教員への「道徳科授業における発問についてのアンケート」を用いて、グループによる教材研究を行った。

特に①発問について②効果的なICTの活用について③中心発問とその他の補助発問の3点を中心に教材研究を行った。

①の発問については、「発問の組み立て方、練り方」「生徒の意見に対しての切り返しや意見の広げ方」「自己の内面を振り返るような時間の確保」「話し合う時間と考える時間のメリハリ」である。

②の効果的なICTの活用については、8月24日に行った夏季校内研修での反省を活かし、ICTを使用することを目的としないことを意識した。また、どのようにICTを活用することで生徒が「多面的・多角的に学ぶことができるのか」、「自分自身との関わりの中で考えを深められるのか」を考えた。

③の中心発問とその他の補助発問に関しては、ねらいとする道徳的価値について、学習指導要領に基づき、その意味を解釈し、どこに重点を置いて指導するのかを教師が明確に捉えたうえで考えることを確認した。

3 研修後

全教員で研究授業に向けた教材研究をすることにより、研究授業者だけではなく授業づくりの当事者意識を持って研修に取り組むことができていた。改めて時間を十分に確保し、教材研究を通して協議することで、他の教員の様々な指導方法を知り、共有することができて指導力の向上にもつながった。

全体共有でグループごとに中心発問を挙げてもらった。全グループが同じ箇所を中心発問としたにも関わらず、発問の仕方が全グループ違っていった。発問の仕方により、生徒の考え方を促進したり、抑制したりしてしまう。生徒一人一人が自分ごととして道徳科の授業に参加できるよう、そして内容項目について考えることができるよう、教師の発問の仕方には工夫が必要である。そのため、教師用指導書に書いてあるとおりに発問するのではなく、生徒の実態を踏まえて発問を変えていくことを共有した。

また、生徒が安心して意見を発表することができるよう、教師と生徒との信頼関係を築くこと、学級における生徒の多様な意見を受け止め、認め合える雰囲気づくり、規律ある態度なども大切であることを本研修を通して、再確認することができた。

2月9日 校内授業研究会

12月18日に行った全教員による教材研究を参考に指導案を作成し、令和6年2月9日に校内授業研究会を実施した。

研究協議では、研究協議の柱として以下の3つの視点に基づいた協議を行った。

考えを言語化し、表現できる道徳科の授業づくりを目指すために…

[視点]

① 学級における、教師と生徒との信頼関係や生徒相互の温かい人間関係について

- ・受容的で安心できる教師の言葉遣い
- ・生徒同士、意見を聴くことができる雰囲気

② 効果的なICTや実物教材の活用

- ・多面的・多角的な学び
- ・自分自身との関わりの中で考えを深める

③ 発問について（学習部のアンケートより）

- ・発問の組み立て方、練り方
- ・生徒の意見に対しての切り返しや意見の広げ方
- ・自己の内面を振り返るような時間の確保
- ・話し合う時間と考える時間のメリハリ

13:40～14:30 道徳科の授業

〔授業者〕

1年5組 教諭 秋山 和也 「裏庭でのできごと」 『中学道徳 あすを生きる』

指導者 新座市教育委員会学校教育支援課指導主事 佐久間 雄一 様

14:50～ 研究概要説明（岩沢）

15:05～ 研究協議会

第1学年5組 道徳科学習指導案

令和6年2月9日（金）第5校時

生徒数 34名

授業者 教諭 秋山 和也

1 主題名 誠実な生き方 内容項目〔A 自主、自律、自由と責任〕

2 ねらい 誠実さは自分の弱さから逃げない心や誇りから生まれることを理解し、自分の行動に責任を持ち、自らを律し、誠実に生きようとする判断力を育てる。

教材名 「裏庭でのできごと」（出典「中学道徳 あすを生きる1」日本文教出版）

3 主題設定の理由

（1） ねらいや指導内容について

自ら考え、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことが、生きるうえでの基本的な態度である。しかし、簡単に周りの意見に同調し、責任を転嫁してしまうことがある。こういった行為は良心の呵責に悩まされることに気付かせるとともに、自分の弱さから逃げないことが自分の誇りを守ることにつながり、それによって誠実で責任ある行動がとれるようになることを指導したい。

（2） 生徒のこれまでの学習状況及び実態について

意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、発言する生徒が限定的になってしまっている。この点を踏まえて、誰もが意見を持ちやすく表現できるような学習過程を工夫し、道徳的な価値を深めさせたい。

（3） 教材の特質や活用方法について

中学校で長く使われてきた名教材である。遊び仲間の3人が裏庭でガラスを2枚割ってしまう出来事の中で、主人公である健二の思い悩みから、心の弱さに打ち克ち自分の誇りや考えを大切にする生き方を考えられる教材である。

4 研究主題との関わり

～生徒が考えを言語化し、表現できる道徳科の授業づくり～

令和5年度全国学力・学習状況調査での生徒質問紙から、「自分と違う意見について考えるのは楽しいか」、「友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」、「自分の考えを深めたり、グループなどで話し合ったりする活動に取り組んでいるか」という項目では、本校は全国よりも約10%低いことが分かった。

今年度も道徳科の授業を要とした全教育活動において、互いの意見を尊重しながら、表現し合える言語活動を充実させることで、他者を思いやる心や人間関係の構築、さらに、自己肯定感も今まで以上に高められるのではないかと考えている。また、学びの基盤となる「心」を育み、自己表現できる生徒を育成し、学びに向かう姿勢を高めていくことで、学力も相乗効果として伸びていくのではないかと考えている。

本校の道徳科では、以下の内容を実践している。

- (1) ねらいとする道徳的価値について、学習指導要領に基づき、その意味を解釈し、どこに重点を置いて指導するのか教師が明確に捉える。また、生徒の実態を捉え、ただ話し合いをさせるのではなく、本時で何を考えさせ、何に気付かせたいのかについて教師が明確に指導観を持つ。
- (2) 思いを話せるクラスを作るために、聴ける集団を作る。そこから温かい集団を作る。
- (3) 生徒たちに考えさせたいことが、どの場面にどのように含まれているのかを検討し、ICT や実物教材などの具体的な教材の生かし方を明らかにする。

5 学習指導過程

時	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点 ◎研究との関わり
導入	1 教材の内容を確認する。 2 内容を踏まえて、教材を読む前に自分だったら謝りにいくかどうかを、考える。	・迷う。 ・すぐ行く。 ・行かない。 ・友達と相談する。	◎（3）ロイロノート等を活用し、生徒に分かりやすく登場人物、あらすじの確認を行い、資料への関心をより高める。 ◎（3）ロイロノートを使って、より表現しやすく他者の考えも分かるようにする。
展開	3 教材を読んで話し合う。 （1）健二は家に帰ってからどんなことを考えていただろう。 （2）次の日、健二を職員室へ向かわせたものは何だったのだろう。 （補助発問） 「やっぱり」に込められた思いを考える。 （3）次の日に健二が大輔に「健二、なんで先生に言ったんだよ」と会った際に言われたら何と	・先生に言うべきか・・・ ・どうしよう ・でも、今更本当のことを言っても・・・ ・心のもやもやが晴れないから言いに行く。 ・ここで言わないと人間として良くない。 ・「やっぱり、事実を隠したまま、やり過ごすのは、やり切れないから大輔ごめん。」	・（2）ロールプレイの進め方を指導する。 ・相手の発言をしっかりと聴くよう指導する。

	発言するか。	・「悪いことをうまく隠し通しても先には繋がらないから。」	◎役割を交代しながら、それぞれが登場人物になりながら考えを深める。
終末	4 本時の振り返りをワークシートに記入する。		・自分と向き合えるような雰囲気を書かせる。 ☆自分の中で誠実さについて考えを深めることができている。

6 他の教育活動等との関連

事前指導	朝読書において教材の内容を大まかに把握。3人グループの振り分けを決めておく。生徒一人一人に番号を振る。
道徳科	教材：「裏庭でのできごと」 ・誠実な生き方を支える逃げない心や自分の誇りに気付き、自らも誠実に生きようとする発言や記述が見られたか。
事後指導	感想用紙への返答で各生徒にフィードバックする。
家庭との連携	授業内容、振り返りを学級通信等にまとめる。

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・発表や、ロールプレイをする中で、自他の共通点や相違点に気付き、他者の意見等を参考に「誠実な生き方」をすることについて自己の考えを深めることができたか。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自主的に考え、判断し、誠実に実行し、その結果に責任をもつことの大切さに気付くことができたか。

8 板書計画

誠実な生き方 裏庭でのできごと 	挿絵 	・先生に言う ・どうしよう	ロールプレイ 1 2 3   見る
挿絵 	挿絵 	挿絵 	・心のもやもやが晴れない ・ここで言わなかったら人として良くない 「やっぱり」
		・やはり事実を隠し通すのは無理だ ・悪いことを隠し通しても次に繋がらない。	

電子黒板には内容説明の表示と、発問の内容を映し出す。

(1) 授業者より

- ・生徒の考えを深めたり、友達の意見を多面的に捉えたりできるよう、教科書には書いていない、その後の作り話を「ロールプレイ」させたが、これが効果的であったか。「ロールプレイ」の仕方はどうだったか。
- ・考えの違いを明確化するために導入でロイロノートのチャートを使ったが、全員同じ考えになってしまったので、違った導入の方がよかった。
- ・生徒の考えを共有した際、本来目指す道徳的価値「自主・自律、自由と責任」が途中で「友情」の方向になってしまった。発問の仕方が悪かった。

(2) 参観者より

① 学級における、教師と生徒との信頼関係や生徒相互の温かい人間関係について

- 指示が明確で何をやっているのかについて生徒が安心して理解することができていた。
- 1人の意見に耳を傾け、最後まで聞き切る雰囲気ができていた。
- 先生が生徒の発言を繰り返して伝えていたので、安心感につながっていた。
- ロールプレイを通じて、生徒が自分の考えを表明できていた。
- 授業規律が整っていた。
- 範読が上手であった。
- △個人で考えさせてから、ペアやグループで意見を交換する時間があってもよかった。
- △ロールプレイで周りの状況を気にしている生徒がいたので、やり方を変えた方がよかった。
- △ロールプレイ後の生徒について、「静かに待たせる」、「意見を出し合わせる」どちらの形式が良いか。
- △呼名の仕方はどうか。ファーストネームで呼んでいるときもあった。

② 効果的なICTや実物教材の活用について

- 自分がどの立場で教材を読むべきか、TVで明確化されていて、考えが整理されやすかった。
- 範読の前にあらすじや登場人物の説明があって、理解しやすかった。
- 教科書を忘れた生徒用にデジタルで用意していたので、全員が参加できていた。
- △導入で聞いたアンケートを終末でもう一度「なぜ？」と発問した方がよかった。
- △ロイロノートを使用しない時間はロックをかけて、生徒が使用できないようにした方がよい。
- △生徒が意見をロイロノートに書いたとき、全員で共有できてよかった。

③ 発問について（学習部のアンケートより）

- 自分の内面を考える時間がしっかり確保されていて、真摯に取り組んでいた。
- 「大輔が納得するように」と促していたので、生徒が的確な理由を考えられていた。

○1人の発問について、「似たような意見の人」を聞きながら話題を広げられていた。

△ロールプレイをする際、始めに教師がモデルをしてもよかった。

△「大輔が納得するように」という条件ならば、教師が大輔役、生徒が健二役をやった方がよかった。

△教師が大輔役をして、問い返しなどをすれば、もっと生徒の考えを深められたのではないか。

△自己の内面を振り返る場面は足りなかった。

(3) 指導者より

- ・導入をロイロノートで行ったが、意見が割れなかった。「誠実な人って誰だろう？」という導入をしてもよかったのかも知れない。
- ・ロールプレイは生徒の考えを言語化する活動につながるのでよい。しかし、生徒対生徒だけの活動だけで終わるのではなく、教師対生徒をモデルで行うことでさらに深く考えられたのではないか。また、それを見た生徒に意見を聞くことで、多面的・多角的な考えが見えてくる。
- ・生徒の意見で「自主・自律」から「友情」に傾きつつあった。これはよくあることなので、教師の舵取りが必要である。

研修推進委員会の取組

1 全学年同時間割による道徳科授業の実施の計画と実践

本校の道徳科授業は担任が自分の学級を指導するという形式ではなく、学年に所属する職員がローテーションしながら授業を行っている。全学年同時間割にすることで、割りあてのない授業を参観できるようになり、教員間の意見交換が活発化した。特に若手教員の道徳科の授業に対する苦手意識が減少してきた。しかし、参観後の授業振り返りを行うための時間の確保が難しい。前年度作成した授業参観シートを効果的に活用できていない状況もあるので、授業参観シートの様式を工夫して活用率を高めていくとともに、このシートを活用して反省会ができる仕組みを作っていく。そして、学年ごとに行っているローテーションを見える化し、どの教員がどの題材を扱うのかを全教員に周知し、参観したい授業に自由に参観できるようにしていく。

2 授業アンケートの実施（授業研究部）（調査研究部）

以下の内容で教員にアンケートを実施した。

1 発問の組み立て方、練り方について困っている。

困っている 5人 どちらかという困っている 7人

どちらかという困っていない 2名 困っていない 0人 わからない 0人

2 生徒の意見に対しての切り返しや意見の広げ方について困っている。

困っている 4人 どちらかという困っている 4人
どちらかという困っていない 6名 どちらかという困っていない 0人
わからない 0人

3 自己の内面を振り返るような時間を十分確保しているか。

十分確保している 2人 どちらかという確保している 8人
どちらかという確保していない 4人 確保していない 0人 わからない 0人

4 話し合う時間と考える時間のメリハリがついているか。

ついている 4人 どちらかというついている 3人
どちらかというついていない 7人 ついていない 0人 わからない 0人

5 道徳についてその他で困っていることがあればお答えください。

○授業について

- ・自分の授業（発問、切り返し含む）が、ねらいに即したものになっているか不安。
- ・少人数で意見を交流する機会は毎回設けているが、その会話が深まっているか、多面的・多角的な話し合いになっているか疑問。
- ・道徳の授業に対する漠然とした苦手意識は、自分の中でこの2年間を通して少なくなってきた実感はあるが、道徳の授業準備をする余裕がなく「あ、明日道徳か…」となってしまう。
- ・振り返りの時間と発問等の時間のバランスが難しく、時間配分に困っている。
- ・発問から次の発問までがうまくつながっていないと感じる。
- ・特支でも道徳を実践したいが内容の選定の段階で悩んでいる。
- ・毎回同じような授業構成になってしまう。授業展開の引き出しをつくりたい。
- ・昨年度の同じ教材の授業者の様子を知りたいが、手段がない。
- ・的確な発問をすること。題材が長いと、読み取ることが中心になってしまい、国語的な方に傾いてしまっている気がする。また、発表者がなかなか出ないときの生徒への振り方も難しいと感じる。

○ICT活用について

- ・ロイロを使うようになったが、意見の共有の方法が難しくなったように感じる。実践例をたくさん見てみたい。
- ・ICTの活用が効果的な場面がいまだにつかめていない。
- ・道徳の授業に慣れることで精一杯。指導書のまま行っているせいか、ICTの使いどころを考えるとICTを授業のために効果的に使う手段ではなく目的になってしまいそう。
- ・意見が一方に偏ってしまう。いろんな方法を試していく。

教員が悩んでいることを来年度の研究の課題として捉えながら、よりよい授業づくりにつながる方策を検討していく。

3 新座中ロイロノート活用事例集の作成（ICT部）

ロイロノートの活用事例を集めています！

校内研修 ICT 部

道徳の授業におけるロイロノートの効果的な活用を ICT 部で検討しています。
そこで、ロイロノートに関する以下の情報の提供にご協力ください。

<提供していただきたい情報>

- ・道徳の授業で使う教材例（ロイロのカードなど）
 - ・道徳の授業で使った実践例（生徒の成果物など）
 - ・教材例&実践例を他の先生が使う際のワンポイント
- ※ワンポイントは指導の流れや効果的だと感じたところ、改善すべきところなど

<活用例を入れる場所>

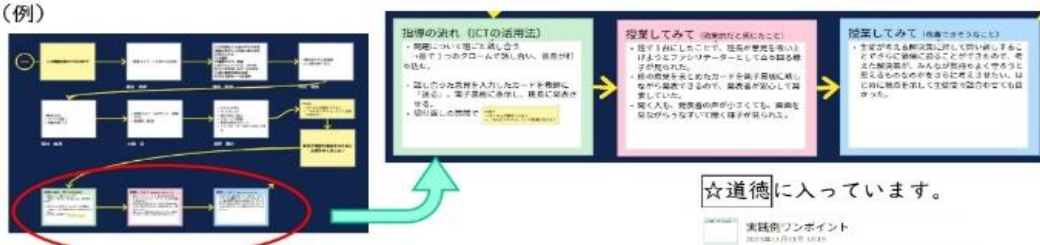
- ①ロイロノートへログイン
- ②道徳などのノートを開く（提供するカードのあるノート）
- ③フォルダに入れるカードを資料箱までドラッグ
- ④下記の場所に【教材名+教員氏名】で名前をつけて保存



<資料箱に入れる前に>

教材活用のワンポイントを入力して、教材例（実践例）に連結させてください。

（例）



(1) 成果

各部会の取組により、教員の道徳科の授業における指導方法の工夫・改善が見られ、教員全体の道徳科の授業に対する意識がさらに向上してきている。生徒においても、「考えを言語化し表現する」意識が高まり、積極的に発表する生徒が増えている。

2年目の研究を終え、一番の成果は、教員一人一人が道徳科の授業に真剣に向き合い、「生徒の考えを言語化するためにはどうすればよいのか」という課題について、教員同士で何度も話し合ったり、検討したりしながら自分事として指導力を向上させてきたことである。

(2) 課題

- ・「授業研究部」「調査部」「ICT部」それぞれが主題に対する仮説をもとに、さらに深く検証していく必要がある。
 - ・教員個人としての道徳科に関する授業力は向上しているが、新座中学校全体としての指導の一貫性を持たせることが課題である。
 - ・教員や生徒を対象としたアンケートだけではなく、家庭を対象としたアンケートをとる。
- また、ゲストティーチャーとして地域の方を招く等、学校と家庭、地域が協力しながら道徳的価値について、生徒の考えを深められる道徳科の授業を実施していく。

(3) 次年度に向けて

教職経験の差や価値観の違いもあり、道徳的価値の捉え方や迫り方は多様であり、新座中学校としての指導方法を統一することは適切ではないと考える。しかし「生徒が考えを言語化し、表現できる」場面設定を必ず意識して道徳科の授業を実践し、深い学びの機会になるように研究を進める。そのためにも、次年度当初は2年間の取組について校内研修で共通理解を図り、発表年度としての取組を充実させる。さらに、生徒や保護者にアンケートを取り、「考えを言語化できる」ことによって、望ましい人間関係の構築や学力向上につながることを実証していく。